

まちづくりミーティング開催結果概要

開催テーマ 桐生祇園屋台の後世への継承について

参加者

桐生祇園祭保存会 11名
桐生市長
傍聴者 3名
報道機関 4名

日時：令和7年12月16日（火）午後6時30分～午後7時25分

場所：桐生鉾座

1 開会

2 あいさつ

3 議題

桐生祇園屋台の後世への継承について

意見交換のポイント

- 「桐生祇園屋台総揃え」を開催して
- 桐生祇園屋台の文化財指定について 等

4 閉会

(市長)

本日は開催テーマを「桐生祇園屋台の後世への継承について」とし、皆さんと意見交換を行い、「共感」「共創」によるまちづくりを創造してまいりたい。

意見交換のポイント

- 「桐生祇園屋台総揃え」を開催して
- 桐生祇園屋台の文化財指定について等

とさせていただいた。

まずは「桐生祇園屋台総揃え」を開催して感じたことについて、皆さんの感想を聞かせていただきたい。



「桐生祇園屋台総揃え」を開催して



(意見)

屋台総揃えについて、まちなか交流館の場所を借りて盛大にできて大変感謝している。また、市外の方からも感激したということで、保存会に寄附をいただいたということからも、それだけ多くの方が感銘を受けられたのだと思う。保存会としては、一年半前から準備をしてきてその苦労が報われ、開催できて本当に良かったと思う。





(意見)
屋台総揃えの3日間で1万人という多くの方に来場いただき大盛況だったが、屋台のイベントでもっと小学生や中学生が演者として参加していただければ、若い方にもより興味を持っていただけたのではないかと思う。

(意見)
屋台総揃えを開催できたことは良かったが、屋台に傷んでいるところもあり、今後の展示や保存が心配であるため、屋台の修復等について支援をしていただけるとありがたい。

「桐生祇園屋台総揃え」を開催して

(意見)
保存会や各町会の関係者が一つにまとまり、何度もミーティングを重ねてきたので、一人一人の思い入れも強く、開催を実現できたのだと思う。この素晴らしい取組を後世へつなげていきたい。

(意見)
史上初めて屋台6台を同時展示し、令和の世の中に実現できて本当に感激している。今後は、これを後世に残すことが我々の使命だと思っている。

(意見)
屋台総揃えが無事に成功し感謝する。屋台総揃えの期間中、この桐生鉾座では一日約700人、3日間2千人を超える来場者となり、まちなか交流館では1万人以上が来場したということで大成功に終わったと思う。
来場者からは、「本当に素晴らしい屋台で桐生の歴史文化の象徴として、織物業で繁栄した頃の桐生を見せていただいた」と喜びの声もいただいた。
また、桐生鉾座で演じた十日町市の保存会の方々からもこのような素晴らしい舞台で演じられたことに感激されていた。
今後このような屋台が揃って見せることができるように。

(意見)

今回の屋台総揃えの開催は10年来の念願だった。今回、とび職の方々が40日・50日と大変な努力をしてくださった。初めての経験をしていただいたが、屋台を組み立てる技術や設備などについて、果たして後世に伝えていけるかというところが一番心配だった。

この屋台については、関東地方だけでなく、おそらく東日本でも類のない規模のもので、建築当時の彫刻装飾など全て揃っているのは稀にみる建造物である。

これを後世にしっかりと残していくという中で、関係資料の収集については、個人的に行うものではなく、行政が率先して行うことが相応しいと思うため、各町会にある資料や古文書などの文献があれば教育委員会で集中的に集め、整理していただきたい。

(意見)

屋台総揃えが開催できたことは良かったが、屋台一基を組み立てるのに100人工を要し、250万円から300万円の組立費用がかかるといわれているため、今後、各町会が単独で屋台を組み立てることは困難であり、今回のような総揃えも最後にならないように思っている。

文化財指定については10年前の祇園祭の反省会の時に市へ打診したが、その後は特段動きがなく今日に至っているため、屋台会館の建設や文化財指定についてお願いしたい。

「桐生祇園屋台総揃え」を開催して

(意見)

本町5丁目では、2014年に53年ぶりに祇園屋台を展示し、それからはもう展示することはないと思っていたが、一年半前から会議を重ね、屋台総揃えでまたお披露目することができた。

せっかく組み立てたものをすぐ解体してしまうのではもったいないという声もあったが、様々な問題もあり困難であることを伝え、これを後世につなげるためには、屋台をそのまま格納できる屋台会館があると理想であるということを町会で話し合っている。





(意見)
屋台総揃え開催については、
一年半前から検討委員会、そ
して実行委員会と会議を重
ねるうちに、増子会長がもう
後戻りはできないという思い
を宣言し、絶対開催するんだ
という強い意気込みを発信し
てくれたことで動き始めるこ
とができたと思う。
屋台の総揃え開催中は、天
候も不安で台風でも来たら
彫刻が壊れてしまうのではな
いか、屋台が風で倒されてし
まうのではないかと心配して
いたところ、3日目に突然大
雨が降って対応に追われたこ
ともあり、屋台撤去まで本当
に気がかりだったが、それぐ
らい貴重な屋台で桐生市民の
宝なのだというのを改めて
感じた。来場者の方々の笑顔
が忘れられない。



「桐生祇園屋台総揃え」を開催して

(意見)
屋台総揃えについては、開催
場所の設定についても良かつ
たと思う。若衆にも責任を持
たせてしっかりと話し合う中
で、町会の人たちも徐々にま
とまってきた。8月末から屋
台を出し始めたときに、率先
的に若衆が出てくれたおかげ
で、私たち年配者は安心して
見守ることができた。町会を
超えて若衆がよく頑張ってい
ただいたこともあり、屋台総
揃えは大成成功だったと思う。
また、演芸についても素晴ら
しく、屋台と併せて常時開催
できれば観光資源になり、桐
生の素晴らしい財産になるこ
と思うため、屋台会館整備につ
いても検討していただきたい。



文化財指定の流れに対する質疑

(意見)
現在、市指定の有形文化財に向けた話をしているが、将来、県そして国の指定文化財へ格上げし、最終目標として個人的にはユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」への追加登録まで目指したいと考えているため、今後ゴールを見据えた協議をしていければと思う。



(市長)
皆さんから今回の祇園屋台総揃えについては、素晴らしかったという言葉をいただいた。屋台総揃え開催により、多くの方々と交流を深められ、町会の絆もさらに深まったと思う。
今後については、この素晴らしい屋台をどのように後世に残すのが大きな課題になる。
まずは、屋台の文化財指定までの流れについて説明させていただきます。



(事務局(文化財保護課))
現状では、祭りの道具として自由に使えるような指定にしたいという考えから、市指定重要有形民俗文化財を想定しているが、今後保存会の皆さんと協議しながら進めていきたい。

(市長)
まずは市の指定に向けて動いていただき、その後は皆さんと協議して進めていきたい。次は、今後、祇園屋台をどのような形で展開するのがよいか、文化財指定に対する意見や先程も何名かから意見のあった屋台会館整備への考えなどについて意見をいただきたい。



桐生祇園祭屋台・鉾 文化財指定までの流れ

- 1 図面、写真等、歴史的な位置づけを示す資料を作成、まとめる
- 2 所有者からの申請
- 3 資料を作成して文化財調査委員会に諮問
- 4 教育委員会議案提出
- 5 告示され、文化財指定

意見交換前に文化財保護課より、文化財指定までの流れなどについて説明
※資料参照



(意見)

今回の屋台総揃えについて、本当に開催できるのか不安だったが、皆さんの協力のおかげで無事実現することができた。

また、各町会の頭や若い人たちが屋台に関心を持っていたことが一番良かったのではないかなと思う。若い人たちが少しでも屋台のことで興味を持ってる間に屋台会館ができるとありがたい。

開催前はどれくらいの方が来場していたのか不安だったが、結果的に約一万人の方に来場していただき、開催して本当に良かったと思う。

また、文化財指定の関係では、これまで6丁目屋台の図面のみなかったが、今回の屋台総揃えで屋台を組み立てたことにより、部材を出す順番なども詳細に書かれた図面ができ、全ての屋台の図面を揃えることができたため、文化財指定について進めることができるのではないかなと思う。その後は目標は大きく掲げ、ユネスコの無形文化遺産の追加登録まで目指せると良い。



(意見)

これまで文化財指定と屋台会館整備について話題に上がったが、進むべき方向性について皆さんの考えをまとめ、今後一つの方向に進めていければ良いと思う。

桐生祇園屋台の文化財指定について



(意見)

文化財指定については、詳細な資料を基に判断されるものと思うが、屋台の組立については、単独で実施することは不可能であり、屋台会館については皆さんの意見同様に整備してほしいと思う。

今回、屋台を解体する際に、部材が大変傷んでいる箇所があつたため、その部分を削って薬剤を塗り保管したが、文化財に指定されたとしても、保管されたままではまた虫などにやられて、部材が傷み修復費用が多くなってしまうため、その辺の財政的な支援について検討していただきたい。



(意見)

文化財指定に向けた流れの中で、保存会と市がそれぞれどのようなことをするのか、資料作成は全て保存会が担うのかなど、具体的事項について説明していただきたい。

また、文化財に指定されたとしても屋台を組み立てるには莫大な費用がかかり、組み立ては非常に困難であることや、屋台会館が整備され展示できるようにしたとしても、どのように運営するのか、各町会が輪番で受付などをするのか、または全て市で行うのかなど、より詳細なことも検討しなければならない。

(意見)

これまでの祇園祭の歴史の流れもあり、屋台総揃えで皆さんの機運が高まっているうちに同じ志を持って力を合わせ、屋台会館の整備というハード面も進めていくことが重要である。

(意見)
屋台会館整備については、重要な話であり、屋台一台一台の修繕は非常に難しく、平成26年から文化庁の支援で修繕を8年間かけて一回り行い、修繕費で最も文化庁の支援を受けた3丁目屋台では約1400万円かかり、全体では2820万円の予算を組んで修繕したが、今後も従前同様に組み立て・解体を繰り返すことが果たして合理的か考える必要がある。

そのためには、屋台会館整備について、文化財指定と同時に進めていくことが一番良いと思う。屋台会館ができていれば、その建屋の中で修繕をするという方法もできるため、その点もみんなが知恵を出し合って考えていきたい。



(意見)
やはり屋台を組み立てて解体することで、相当な経費と部材が損傷をしてしまうこともあるため、屋台会館の整備は先に進めていただけたらありがたい。



桐生祇園屋台の文化財指定について

(意見)
文化財指定について、有形か無形かの判断は難しいが、屋台については、組み立てる度に部材が破損してしまうため、組み立て・解体をする必要のない屋台会館を早期に整備して屋台を展示することができれば、有効的な保存が可能になると思う。



(意見)
文化財指定までの作業量が把握できないため、現段階での判断は難しいが、屋台の部材がずっと蔵の中に保管されているようなことではさみしいので、安全に後世へ残していきたいという思いはある。



（意見）

横山町には屋台はないが、文化財に指定されたとしても、部材が蔵の中にとまってあるだけだとかの意味がなく、毎年一基ずつでも組み立てた状況で皆さんの目に触れるようにした方がよい。

そのようにすることで、今回もあったが、屋台の経年劣化も状況も見ることができ、修繕が必要な箇所も考えることができる。

長期的なことを考え、屋台を毎年出すなど、どのように皆さんに見ていただけるか、昔は娯楽として町の人々に楽しんでいたため、今後はお祭りの時だけではなく、皆に見てもらえるような文化財にしていければ良いと思う。

（意見）

文化財の指定については、指定によるメリットなど、より具体的な資料を基に、保存や継承の方法と併せて検討する必要がある。

桐生祇園屋台の文化財指定について

（市長）

文化財指定や屋台会館の整備について熱い想いを聞かせていただいた。

今後、文化財指定によるメリットなど、具体的に分かりやすい資料も示しながら、文化財指定に対して協議できるようにしたい。

今回の桐生八木節まつりは3日間で48万5千人の方々に訪れていただき、特に桐生祇園祭については、屋台総揃えも史上初だったが、4丁目が天王番で屋台・鉾・大櫓の一斉展示についても史上初ということで、今年は二つの史上初の大変素晴らしい取組ができた。

このことについては、正に文化財指定や屋台会館の整備に向けての追い風になるのではないかと考えており、市としても指定に向けて市内の横の連携を深め、早い段階で皆さんへ方向性を示したい。

また、屋台会館についても、その必要性は皆さん共通の認識だということを確認させていただいたが、場所や建設費用など、様々な課題を解決しなければならぬため、今後、保存会の皆さんを始め、町会の皆さんの意見も聞かせていただき、なるべく早い段階で結論を出していきたい。文化財の修理や保守管理に必要な経費については、国・県・市の補助金その他の財源などを有効的に活用し、祇園屋台を後世に継承できるように情報提供や支援を行ってきたい。

(市長)
桐生祇園屋台の後世への継承について、増子会長より総括をお願いしたい。

(増子会長)

文化財指定や屋台会館整備の検討については、早期に実施していただき、桐生市の貴重な財産を後世に伝えていきたい。

今回の屋台総揃えの開催で皆さんの決意は固まったと思うため、若い人たちも含めてみんなで同じ方向に向かって進めていきたい。

屋台会館整備については、皆さん前向きな意見が出されたが、それ以外の組立費用の工面など、自分たちでもできることはしていかなければならないと感じており、市は元より、国・県その他多くの方々からの協力を得ながら進められれば良い。

今回屋台総揃えを開催したことにより、その価値を内外に示すことができ、文化財指定への機運が高まったことは大変良かった。



(市長)

増子会長にまとめていただいたことが全てだと思っていたが、この祇園屋台の文化財指定については、桐生市の貴重な財産を後世に残すためにも必要であると思っており、皆さんから非常に心強い意見をいただいたため、スピード感を持って、指定に向けて取り組んでいきたい。

屋台は、織物の産地として栄えた当時の桐生市の経済力、それから文化度の高さを示すために大変貴重な歴史的文化資源だと思うため、しっかりと取り組んでいきたい。

